

日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）について

北海道地方環境事務所

1. 国立公園ビジョンについて

(1) 作成目的

地域の多様な関係者とともに、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の増進を図るため。

(2) 作成主体

広範な関係者が参画する協議会（総合型協議会）又は世界自然遺産地域における連絡協議会若しくは国立公園満喫プロジェクトに係る地域協議会その他の協議会（以下、総合型協議会等という。）

(3) 作成手続

総合型協議会等における協議 等

(4) 内容

国立公園全体又は国立公園の地域ごとに、国立公園の価値や保全・利用の目標を示すもの。

2. 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの作成

(1) 作成の背景

令和6年6月25日に日高山脈襟裳十勝国立公園（以下「本国立公園」という。）が指定された。同年8月27日に本国立公園の総合型協議会として、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（以下「本協議会」という。）が設立されたことから、地域の多様な関係者ととともに、本国立公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の特性を踏まえた本国立公園の望ましい姿、本国立公園が提供すべきサービス、本国立公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したビジョンを作成し、その実現を図るもの。

(2) 案の概要

本国立公園は、1市11町1村（帯広市、日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、清水町、芽室町、大樹町、広尾町及び中札内村）の区域が指定されているが、全域が分断されることなく連続した地域であり、山域から海域まで一体的に取り組むことが必要であるため、全域統一のビジョン案を作成した。

① はじめに

本国立公園ビジョン策定の目的、対象区域、本国立公園の概要を示している。

② 価値・魅力

本国立公園の価値や魅力を概説している。

③ 現状と課題

本国立公園における保護、利用及び管理運営体制に関する現状と課題について示している。

④ 基本理念

本国立公園の有する貴重な自然環境を将来世代に継承し、後世までにその恩恵を享受できるように、関係者が連携して厳正な保護と適正な利用を推進する際に基本となる理念を示している。

⑤ 国立公園としてのビジョン（あるべき姿、目指すべき将来像）

本国立公園が基本理念に基づき推進する、厳正な保護及び適正な利用並びに協働型管理運営体制についての３つの姿を示している。

（３）作成の経過及び決定に向けたスケジュール

R6.8～ 本協議会における検討

R7.5～ パブリック・コメント開始（～R7.6）

パブコメ結果の公表準備

パブコメ結果を踏まえた本協議会における検討

本協議会総会において決定